

地場にこだわり

我が社の

新製品開発への道

中島商店

福山市御船町

(下)

子(保命酒ジエラード)、
保命酒アイスキャンディ
1・7匹ミニたいやき、
保命玉(保命酒ゼリー)

を企画・開発した中島商店(福山市御船町)は明治四十二年の創業で百年の歴史を誇る。砂糖の卸から始まり、小麦粉など製菓の原料・食品卸・小売業など徐々に業態を広げて今日に至つてい

う試みだ。保命酒を材料

に際しては追い風もあつた。明治維新の幕開けとなつた黒船来航で知られるペリー提督の子孫がこの五月、日米協会の招きで来日。当時の幕府がペリーをもてなした応接料理を再現する試みが行われた。時の老中は福山藩主の阿部正弘公。ペリーと保命酒を献上したとさ

れた。これを機会にもつと料に出会えたことが大き

とした菓子もその流れから開発に至つた。

もつとも、ただ闇雲に提案しているのではな

い。あくまで地場にこだわり、地場产品を広くアピールする。

命酒を企画・開発を担

命酒菓子についても地元

企業が既存の設備で対応

できることを命題に開発

した。「うちは食品卸業

企業が既存の設備で対応できることを命題に開発

して出すことについて快

諾を得た。当日は保命酒

菓子も持参したところ、

商品を企画・提案する

いができるかが大切」

(中島専務)と話す。

保命酒をアピールする

ペリーの子孫にも大変好

評だったという。この経験から中島専務は「保命

酒は本当に福山だけのも

の。宝、財産」と確信し

即座に主催者らに連絡をとり、保命酒を食前酒と

発から製造、流通まで幾

つの工程の中で数多く

人の協力を得た。地元

で作つた商品が世に出る

ことの意義は大きい。

福山には、備後しまなみには保命酒以外にも全

くない。それらを材料に使うことで地元产品の菓子がさらに大きく発展し

ていく可能性も秘めてい

る。「地産地消」をキ

ードに現在、他の商品

も開発中だ。「恩返しで

られた会社だから」。さら

なる新商品がお目見えす

るものもそう遠いことでは

ないかもしれない。



保命酒は福山の「宝、財産」と確信

地元企業の協力得て